

ひょうごの遺跡

兵庫県立考古博物館



〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500
TEL.079-437-5589 FAX.079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

平成20年(2008)

68号

7月20日
発行

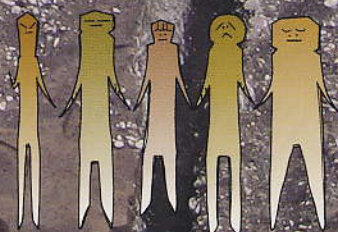
飛鳥時代の建物群

市之郷廃寺を建てた一族のムラか…



1 いちのどう 市之郷遺跡 (姫路市市之郷)

姫路警察署庁舎建設に先立ち、発掘調査をしました。調査の結果、弥生時代・飛鳥時代・平安時代の土器や生活の跡が明らかとなりました。特に注目されるのが、飛鳥時代の約20棟の建物跡群です。建物跡の約半数は倉庫であったと考えられます。当時、倉庫を持つことができたのは、一部の有力な豪族に限られていました。次の時代、今回の調査地の東側に市之郷廃寺が建てられますが、今回明らかとなったムラがその母胎となったものと考えられます。



飛鳥時代

調査のなかで、最も多くの遺構・遺物が見つかりました。掘立柱建物跡のほか、^{たてあな}竪穴住居跡・井戸・溝などがみつかっています。

側柱建物



総柱建物



掘立柱建物は、柱の並びから、総柱建物と側柱建物の2種類が明らかとなっています。総柱建物は倉庫であったと考えられ、側柱建物は工房跡等の可能性が考えられます。これらの建物は、いずれも竪穴住居が埋められた後に建てられています。

2種類の建物とも、その柱穴の規模が1mを超えるもので、大規模な建物であったものと推定されます。

竪穴住居跡



竪穴住居跡は、全部で25棟明らかとなりました。これらの住居跡は、同時に建てられていたのではなく、「住居の埋め立て→新しい住居の建設」を繰り返していました。同時期に建てられていたのは、数棟程度であったと考えられます。

残り状態のよい住居跡は多くはありませんが、状態のよい住居跡の一边にはカマドが造られていました。当時の炊事場と考えられます。

井戸



調査地の南東隅でみつかりました。井戸枠は、丸太を割りぬいた丸木舟の一部を組み合わせて、造られています。直径がおおよそ1mあります。井戸枠自体は約50cmの深さしか残っていませんでしたが、当時の地表面からの深さは3.2mになります。

飛鳥時代の井戸は、兵庫県下でも数少ない発見です。



弥生時代

飛鳥時代ほど遺構はなく、土坑・溝などがみつかっています。

土坑のなかには、使われなくなった土器の破片がぎっしりつまった状態でみつかっています。多くは、弥生時代中期（約2000年前）のもので、古いものでは、前期（約2300年前）までさかのぼるものも、溝のなかからみつかっています。

他に、後期（約1800年前）の土器も溝のなかからみつかっています。

土 坑



平安時代

掘立柱建物跡・墓・溝・土坑がみつかっています。この時代の遺構は、調査地全体の広い範囲に広がっています。

掘立柱建物跡は、確実に復元できたのは2棟ですが、さらに数棟はあったものと考えられます。柱穴の分布から、調査地全体に広がっていたものと考えられます。

墓は、調査地の一番南側で見つかりました。墓の底からは、完全な形の青磁碗や土師器の皿、さらには小刀が、死者に供えられた状態でみつかっています。なお、人骨等はありませんでした。

溝は、深さ約10cmと小規模ですが、なかから小さな壺が2点見つかりました。

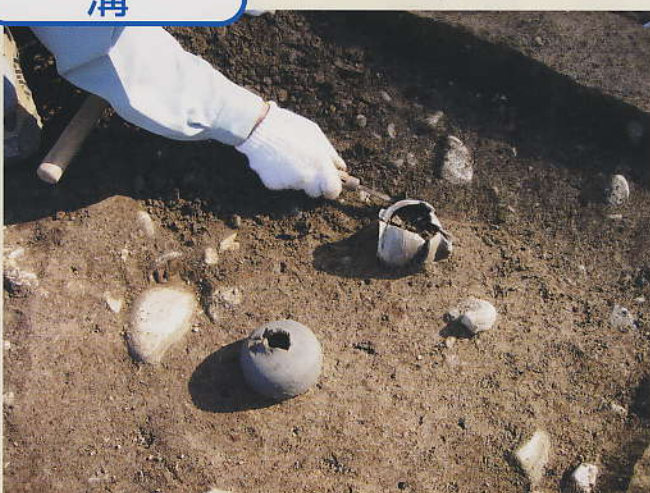
墓



掘立柱建物跡



溝



2 曾我井・沢田遺跡 (多可町中区曾我井)

国道427号に沿って、東西270mほどの細長い範囲を発掘調査したところ、奈良時代末から鎌倉時代にかけての建物や水路、墨書のある土器、穢れを払うために使用した人形や呪符など、古代から中世にかけて北播磨の歴史を語る上で、興味深い発見がありました。

発見 1 平安時代後期～鎌倉時代の大型の掘立柱建物跡が見つかりました。

掘立柱建物跡は5間×4間以上（床面積125㎡以上）あり、一般の住宅と考えるには規模の大きな建物です。また、付近の水路からは墨書で『西殿』と書かれた平安時代後期の須恵器の椀が出土しています。これらのことから、発見された掘立柱建物跡は、安田荘（現在の多可町中区の大部分を占めていた荘園）の荘所（経営に関わった建物）であった可能性が考えられます。



「西殿」と書かれた土器

発見 2 奈良時代の終わり頃に掘られた水路が見つかりました。

調査区の中央付近からは東西方向に流れる幅3m、深さ1mほどの水路が見つかりました。

水路からは、穢れを払うために使用した人形や結界・依り代に使用した斎串、呪符（願いがかなうようにおまじないを書いた木札）、『宗我西』『宗我口』『西戸』『中家』などの墨書のある土器、土器の蓋を利用した硯（転用硯）、製塩土器などが出土しました。



奈良時代の終わり頃に掘られた水路（西から）

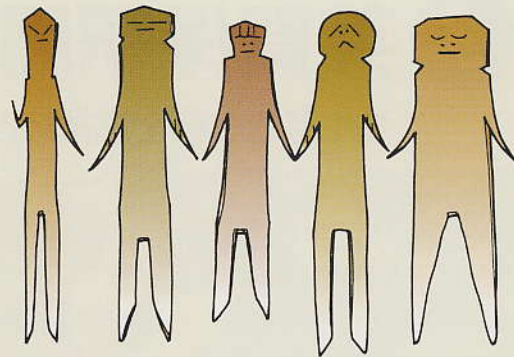
墨書土器は近くにあった古代集落の祭祀に使用され、人形や斎串といった木製祭祀具と共に集落のはずれを流れる水路に捨てられたと考えられます。その祭祀のほとんどは平安時代前半に行われたようです。水路はその後に使われ続け、時に掘り直され、鎌倉時代の間に埋まってしまいます。



人形



正創院文章にも記録されている 「宗我部」さんが住んでいました。



土器に書かれてある『宗我』は、『そが』と読むことができます。正倉院に伝わる文書には、奈良時代の播磨国多可郡奈何郷に宗我部を名乗る人々が住んでいたことが記されています。

宗我部のルーツは、古代の大豪族である蘇我氏に仕えた部民です。正倉院文書からは、西暦745年頃に、19才の青年『宗我部小敷』が出家するため奈良の都へ行ったこと、そして東大寺大仏建立に際して、宗我部氏が寄進を行っていたことがうかがえます。宗我部氏は、地元の有力者だったのでしょうか。なお、これらの記録は水路で祭祀を行われていた時期からは半世紀以上も前のことです。

『宗我部』さんの集落は、調査地点の近くに存在したと考えられます『曾我（井）』と字を変えて、地名として後世までその名が残ったのです。



宗我西



宗我



宗我



中家



中家

宗我部小敷
年十九

播磨國多可郡奈何郷戸主宗我部老人戸口

正倉院文章より



あ が ほ ③ 英賀保駅周辺遺跡第4地点

とまみ
(姫路市苦編)

弥生時代の粘土採掘坑と中世の集落

姫路バイパスの側道整備が行われるのに伴って、発掘調査を実施しました。西から1～4区の四つの地区を発掘し、弥生時代から鎌倉時代の遺構と遺物が見つかっています。

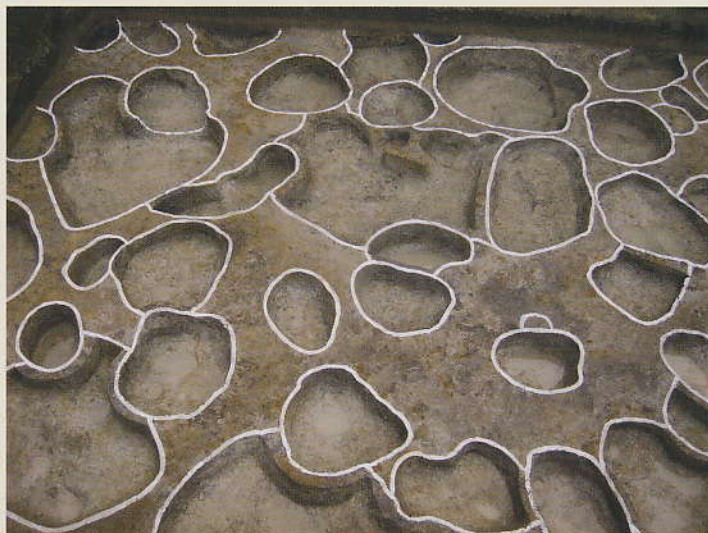
1区は区画整理に伴う調査で唐三彩が出土した地点のすぐ南に当たり、上層で文字を書いた土器や硯等、奈良時代の遺物が多く出土しました。そして、その下から弥生時代後期（約1700年前）に掘られた穴が100基近く見つかりました。これらの穴は、

1. 重なるように掘っており、複数の土ですぐに埋められている、
2. 粘土層を掘り抜いて、その下の砂の上面で掘るのを止めている、
3. 完全な形の壺や甕が埋められていることがある、

という特徴があり、様々な遺跡の例から、土器を作るための粘土を採取するために掘られた「粘土採掘坑」だと考えられます。隣接する区画整理に伴う調査の際にも、同様の粘土採掘坑が見つかっていて、弥生時代の川に沿って粘土をとった穴が連なっていました。いくつかの穴には甕や壺が埋められていましたが、その理由はよくわかりません。

2区と3区では東西方向に流れる弥生時代の溝が複数見つかっています。

4区では弥生時代の溝と中世の掘立柱建物が見つかりました。中世の掘立柱建物は4棟あり、この他に掘立柱建物の一部か柵と考えられるものが3基あるほか、調査区の壁際でも調査区外に伸びる柱穴列が見つかり、このあたりには中世の建物が集まっていたと思われます。これらの建物と柵はいずれも条里地割りに沿って建てられています。英賀保駅周辺遺跡第4地点の調査では、これまで70棟以上中世の掘立柱建物が見つかりっていますが、一カ所に固まるのではなく、いくつかの場所に分散して建てられており、典型的な「散村」であったと思われます。



弥生時代後期の粘度採掘坑と採掘坑に埋められた壺



中世の掘立柱建物と弥生時代の溝

4 米里山際古墳

米里山際古墳は養父市八鹿町米里にあります。今回、一般国道483号近畿自動車道和田山八鹿道路事業のうち、八鹿インターチェンジの建設に伴って調査を実施しました。

調査の結果、古墳は横穴式石室を持つ6世紀後半の円墳であることが判明しました。墳丘や石室は水田開発などで残存状況はよくありませんでしたが、直径14m前後を測り、周囲には3～4m前後の周濠を巡らしていました。

石室は長さ8m、幅1.4～1.7m前後と比較的大型で、床には礫床が敷き詰められていました。内部からは須恵器・土師器などの土器や、耳環・鉄鏃・鉄釘などの金属製品が出土しています。八鹿町の古墳から鉄釘が出土することは珍しいそうです。



石室内の作業風景



古墳全景（東から）



耳環出土状況



今回紹介した遺跡の位置

平成20年度予定の主な調査

No.	遺 跡 名	所 在 地
1	大池ノ南遺跡	三田市西山
2	No.20地点(確認)	神戸市北区道場町
3	明石城下町屋	明石市西新町
4	神野北山遺跡	加古川市神野町
5	坂元遺跡	加古川市野口町坂元
6	津万遺跡群	西脇市嶋 他
7	大門畑瀬遺跡	西脇市黒田庄町大門
8	津万井窯跡	西脇市黒田庄町津万井
9	清水・山城遺跡	多可郡多可町加美区
10	市之郷遺跡	姫路市市之郷
11	飯田遺跡	姫路市飯田
12	西柄遺跡	相生市若狭野町
13	上比地森ノ上遺跡	宍粟市上比地
14	池田古墳	朝来市和田山町平野
15	井垣城跡	養父市浅野
16	鳥居城跡	豊岡市出石町鳥居
17	山谷墳墓群	美方郡香美町香住区



平成20年度夏季企画展 「古代の漁業」

7月19日(土)～8月31日(日)

- 県内で出土した古代の漁具を展示
- タコ壺、魚とりの道具、塩づくりの器ほか
- タコ壺漁の復元実験の模様を放映

観覧時間 午前9時30分～午後6時(入場は午後5時30分まで)

観覧料金 一般200円(160円)/高・大学生150円(120円)/小・中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金 ※県内の小・中学生はココロカード持参で無料
※障害者とその介護者、県内在住の65歳以上の方は半額



考古博物館は
夏休み期間中
休みなし!



編集後記

ひょうごの遺跡第68号をお届けします。

平成19年度下半期に調査を実施して前号で紹介できなかった4遺跡を紹介しています。併せて今年度調査予定の一覧を掲げました。今年度は播磨と但馬に調査現場が集中しています。各地で現地説明会なども行いますので、足をお運びください。

また、考古博物館においても順次速報展示を行いますのでお越し下さい。今号では市之郷廃寺を造営したムラと想定される市之郷遺跡を紹介していますが、その本体である市之郷廃寺を今年度調査します。その成果にご期待ください。

